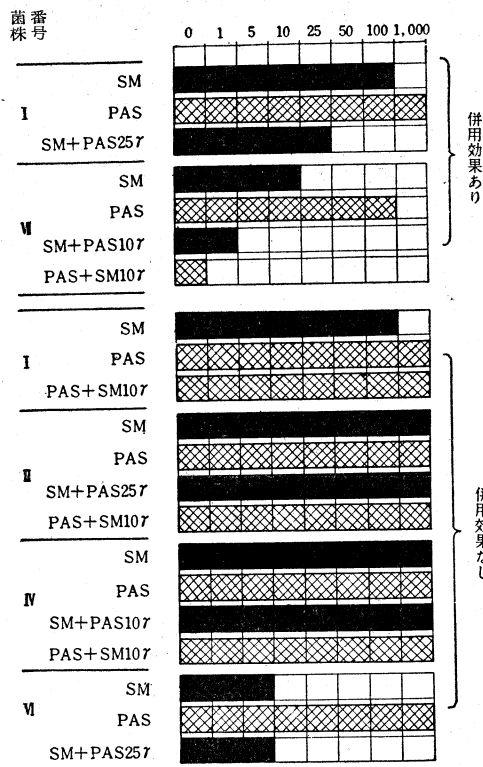


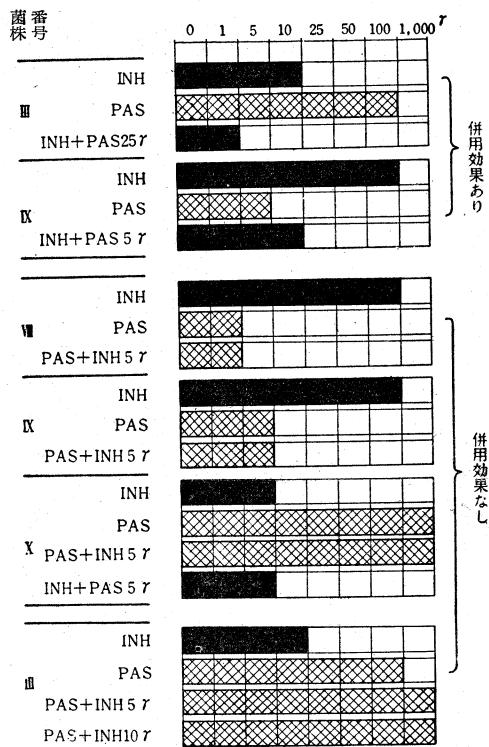
P. 51~64 (北本治氏論文) 中 54頁, 56頁, および 57頁, 64頁に誤植がありましたので下記のように訂正いたします。
56頁, 57頁の分はこのまま切りぬいて貼附できるようになっております。

[P. 56] (貼附用)

図表 15 2者に耐性の菌に対する併用効果(in vitro)
(SM・PASの場合)



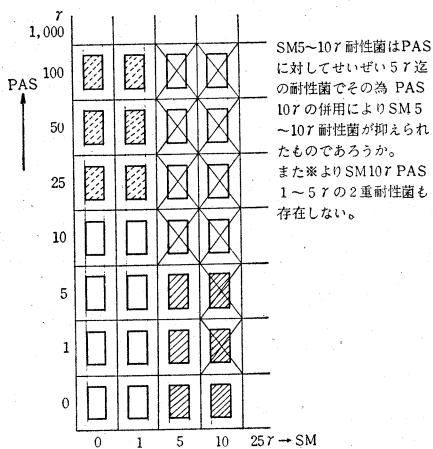
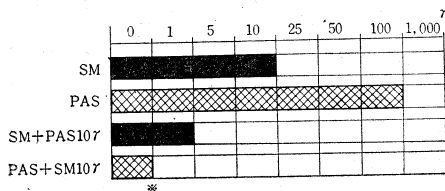
図表 16 2者に耐性の菌に対する併用効果 (in vitro)
(INH・PASの場合)



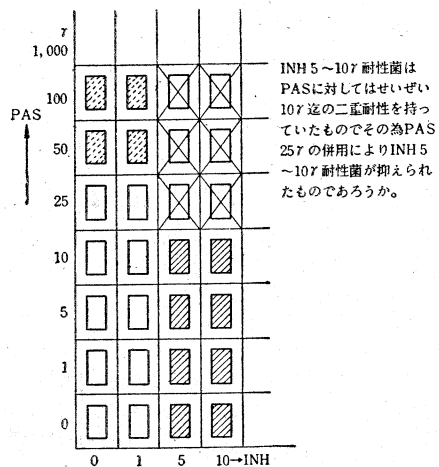
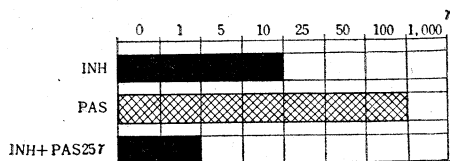
SM10 γ を加えてPASを併用すると、PAS1 γ で阻止される。図の上段は阻止限界の下つた例、下段は下らなかつた例で、一般には下る例の方が少ない。INH, PAS 2者耐性の場合にも同様のことがみられる (図表16)。以上の例に少しく考察を加えると (図表17), SM10 γ , PAS100 γ の2者耐性株では、下段に示すような範囲の菌, すなわち, SMにのみ耐性の各段階の菌 (SMに対する single resistant), PASにのみ耐性の各段階の菌 (PASに対する single resistant) およびSMの各段階とPASの各段階の各種の組合せに相当する多数の2重耐性菌 (SM・PAS両者に対する double resistant) が各種各様に混在している可能性があるわけである。しかし上述の例ではPAS10 γ を加えるとSM

5 γ で阻止されるのであるから, SM5~10 γ 耐性菌はPASに対してはせいぜい5 γ までの耐性菌である筈で図中□の2重耐性菌は存在しなかつた場合と推定され, またSM10 γ を加えるとPAS1 γ で阻止されたのであるから, SM10 γ , PAS1および5 γ の2重耐性菌すなわち図中■の2重耐性菌は存在しなかつたものと推定される。すなわち, この菌株中には□印以外の組合せに相当する菌のみが存在していた場合と考えることができる。もしもポピュレーション中に□または■印の如き菌が存在する場合には, 同じくSM10 γ , PAS100 γ の2者耐性であっても, 2剤を組合せた場合上述の如き阻止限界の下降がみられないものと考えられる。

図表 17 SM・PAS 2者に耐性を有する菌株に対する併用効果 (Youmans 培地)



図表 18 INH・PAS 2者に耐性を有する菌株に対する併用効果 (Youmans 培地)



[P. 54の右段 1行~7行まで] を次のように訂正

VMも2~6カ月使用例で、PAS、INHまたはIHMS併用の場合、耐性出現は少ないようである。ただしVMについては対照例をえがきたいので、断定は保留したい(図表10)。

PAS耐性はINHまたはSM、または3者併用でいずれにおいても、併用による著しい抑制はみとめにくい(図表11)。

[P. 64の左段 結語 の上の6) および7)] の文章は右段 5) のあとに続く